

女性研究者技術者委員会ニュース

No. 22 2010年3月10日

連絡先：日本科学者会議全国事務局 Tel：03-3812-1472、Fax:03-3813-2363

e-mail: zenkoku@jsa.gr.jp ホームページ <http://www.geocities.jp/jsajosei/>

目次

1. 各地の活動・会員からのメッセージ
 - 1-1 第15回東京科学シンポジウム（日本科学者会議東京支部主催）報告
 - 1-2 『生きることとジェンダー』をふりかえって
 - 1-3 建築系・住居系分野における男女共同参画～研究室の学位論文紹介
 2. 第18回総合学術研究集会 参加のお誘い
 3. ホームページ更新のお知らせ
 4. 第7回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加報告
 5. 事務局メモ
 - 5-1 政府による行政刷新会議事業仕分け一女性研究者支援に関する内容
 - 5-2 2009年女性研究者技術者委員会、ならびに女性研究者関連活動の記録
-

1. 各地の活動・会員からのメッセージ
 - 1-1 第15回東京科学シンポジウム（日本科学者会議東京支部主催）報告
【第16分科会】女性の社会的地位・権利と社会進歩

—「国連女性差別撤廃条約」採択30年に寄せて—

森崎 尚子（東京支部）

今年は「国連女性差別撤廃条約」が採択されて30年目に当たる。この間に女性研究者をとりまく状況はどう変わったかを語る目的でこの分科会が設定された。

まず石渡真理子さんが35年前に発足した（現）JSA女性研究者・技術者委員会の活動について述べられた。12回にわたる全国シンポジウムの開催など、女性研究者の研究環境改善にむけての活動と現状が報告された。

伊藤セツさんは私立女子大で30年間、博士の養成に携わった経験を話された。出身もテーマも多岐にわたる院生のニーズに応え、学位を授与して就職させるには「教員側にも責任とより高い指導力が必要」との信念のもとで実践された。ご自身のキャリア形成、家庭生活との両立についても語られ、参加者から「自分も先生の指導を受けたかった」と声がでるほどであった。

松村比奈子さんは、主に2005-6年におこなった大学非常勤講師の実態調査について報告された。首都圏の私立大学では授業の6割近くを非常勤講師が担当している。不安定な身分で、多くの大学の授業を掛け持ちしている非常勤講師の平均年齢は45.3歳、

55%は女性だという。

船山万里子さんは、自身がメンタルヘルスの問題をかかえていることを話された。今は本人はかなり回復しているが、同じ様な問題を抱えている院生は多いという。大学院重点化や国立大法人化のもとで学生／教員比が増大し、教員とのコミュニケーションが不足していること、進路・雇用への不安などが問題の背景として指摘された。

馬淵綾子さんは教授の定年に伴い退職を勧められたが、自力でニュージーランドでのポストを得て研究を続けられ、研究者として高い評価を得ることができたことを話された。性差別、国籍の差別がないというニュージーランドの研究環境は、我々が直面する課題を解決するために大いに参考になるだろう。

分科会の参加は13人であった。

(本シンポは、日本科学者会議東京支部主催で、2009年11月28日、29日に中央大学多摩キャンパスで開催。また、本報告は「日本科学者会議東京支部つうしん 第15回東京科学シンポジウム報告・特別号」No. 508-2、2010. 2. 10 から、了承を得て転載したもの)

1-2 『生きることとジェンダー』をふりかえって

沢山美果子 (岡山支部)

2009年5月16日、女性研究者の会・京都主催のランチョントークにお招きいただき、働くことと生きることは緊密に結びついているという現状認識にもとづく岡山大学での総合科目、「ジェンダーと生きること」の取り組み、その講義のなかで学生たちにも語った「自分にとって価値ある生とは何か」の模索のなかで、26年勤務した短大を退職し、非常勤講師として研究を続けることを選択した、その意味について報告をした。

女性研究者支援センター2階の会議室で開かれた会には、企画者である坂東さん、宇野さん、また岡山大の講義録『働くこととジェンダー』(世界思想社)のお二人の女性編集者、そして年代も専門も様々な女性研究者の方々が、それこそ、ぎっしりという感じで多数集まってくださった。

報告のあと、それぞれの自己紹介をしたが、何よりも印象的だったのは、自己紹介で予定の時間がすべてなくなってしまうほど、それぞれが語り、共感し、また語りつくせない思いを残して終わったということだ。とくにとどまることを知らない大学の「学校化」と大学間格差、そのなかで一見恵まれているかにみえるが、特定の研究に予算がつくなかでの任期付の職をめぐる矛盾、採用に当たって厳然とある男女の差別、ロールモデルを見出せない男性優位の職場、時間のやりくりでは解決できない女性研究者の職場環境をめぐる様々な問題、それらが、堰を切ったように語られ、そこでの議論は、その後メールを通じても展開された。

そのなかで教えられたことは二つある。一つは、「必ずしも意見が一致しない点」を

大事に議論を積み重ねていくこと、二つには、大学を研究と教育の場にするというごく当り前のことすら実現が困難な職場が数多くある現状のなかで、坂東さんの表現を借りれば、職場を越えたある種の「広域研究体制」をつくり、誠実に粘り強く研究を続けていく、そのためにもネットワークが必要だということ。研究への志を持ち続けること自体が困難な時代だからこそ、世代と分野を超えた女性研究者の交流が必要だ、そう痛感させられた会であった。

1-3 建築系・住居系分野における男女共同参画～研究室の学位論文紹介

小伊藤亜希子（大阪市立大学生生活科学研究科 大阪支部）

私の研究室のドクターコースの学生である趙玟姪（ちょうみんじょんさん、韓国からの留学生）が、「建築系・住居系分野における仕事と生活からみた男女共同参画に関する研究」というテーマで学位を取得しました。この研究は、建築分野におけるジェンダーエンパワメント研究会という集まりのなかで続けてきた、当分野における女性参画の調査研究の流れのひとつに位置付けられます。

この研究の一つの柱は、韓国と日本における、建築系・住居系大学の女子卒業生の追跡調査を行ったことです。建築業界の特に厳しい労働環境のなか、女性が家庭生活と両立して働き続けるには困難が伴っている状況が予想されましたが、結果、日本の女子卒業生は、専門に強くこだわり、思いの外多くが専門分野で仕事を続けていることが分かりました。ただし、特に既婚女性の場合は、家庭生活との両立のために何度も転職をくり返すことで正規雇用の割合が減り、中には独立自営（設計事務所が多い）を選択する女性もいます。一方 1980 年代後半を境に、仕事を優先して、独身仕事継続型や DINKS 型を意図的に選択する女性も増加しています。韓国では、女性が建築分野で働き続けるのはさらに困難で、ほとんどが仕事をやめてしまっており、働き続けているのは、様々な条件に恵まれたごく一部の女性でした。

もう一つの柱は、建築設計者自身の生活体験が仕事にどう反映しているかという調査です。当分野の仕事は生活空間を創ることであり、その作り手には本来生活感覚が強く求められる分野です。そういう意味では、現実には家庭生活との両立に苦労しながら仕事をしている女性建築設計者は、その生活体験を生かすことができるわけです。実際に多くの女性設計者が、住宅設計を中心に、ハンディを武器に変え、家庭生活体験を仕事に生かし活躍していました。格好はよくても、とても使う人の立場に立って設計したとは思えない建築もたくさんあるなかで、男女ともにワークライフバランスのとれた豊かな生活を保障されることが、使う人の立場に立った豊かな生活空間創造につながるのだということを示せたと思います。

2. 第18回総合学術研究集会 参加のお誘い

第18回総合学術研究集会が開催されます。奮ってご参加下さい。	
テーマ	「21世紀：人類史の転換期における科学の役割 －多様性と普遍性の矛盾を考える」
開催日	2010年11月20日（土）～21日（日）
場所	宮城県仙台市 KKR 仙台
その他	分科会設置申請締め切り 4月9日（金） （三宅良美 秋田支部）

3. ホームページ更新のお知らせ

日本科学者会議女性研究者・技術者会議のホームページをリニューアルしました。科学者会議の取り組み、政府の女性研究者・技術者政策、各研究機関における支援策などの情報を掲載中です。このホームページは会員の大切な交流の場です。ご意見、全国の女性研究者・技術者に発信したいニュースなどをぜひお寄せ下さい。

(HP担当 今枝暁子 東京支部)

URL <http://www.jsa-t.jp/woman/index.html>

投稿用アドレス jsaqzenkokujoseiplayer@yahoo.co.jp

4. 第7回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加報告

石渡真理子（東京支部、女性研究者技術者委員会委員）

2009年10月7日、東京工業大学で、表記のシンポジウムが開かれ参加してきました。午前の部は、分科会A「学協会での男女共同参画のとりくみ」と分科会B「若手研究者と異分野交流のネットワーク作り」の二つの分科会があり、石渡は分科会Bに参加しました。午後の記念講演などにも出席しましたが、ここでは分科会Bについてのみ報告します。

分科会Bでは、Aさん（学振RPD＝出産・育児による研究中断から復帰するための奨学金を受給している特別研究員）、Bさん（（独）科学技術振興機構さきがけ専任研究員）、Cさん（某国立大学法人女性研究者支援室特任助教）の3人の若手女性研究者の報告がありました。出席者は30人くらい、男性が20%程度いました。

Aさんは非常勤であるための、以下のような不公平や不安をなくして欲しいと述べました。○夫婦とも非常勤であるため市の認可保育園への申請を受け付けてもらえなかった、○努力が正しく評価されるのか、○成果をあげれば任期のない職につけるのか、○評価が公平でないと感じた時どこに相談すればよいのか。また、自分が経験した米国のポスドク（PD）と日本との違いについても話しました。

Bさんは、専門が情報系分野で、企業の受け皿が比較的多い分、他の分野と比べれば問題は少ないと思うと話しました。現在、幅広い活躍の場を得て、充実した研究生

活をしているそうですが、○問題が発生したとき相談するよりどころがない、○PD 同士が連絡をとりたくても実名を出しにくい、などと述べました。

Cさんは、日本物理学会などがおこなった物理系ポスドクの実態調査結果を紹介し、○長期的視野での研究ができない、○将来設計が立てにくい、などの問題があると指摘しました。Cさんの専門は素粒子理論で、学位取得後、研究員や非常勤講師などを転々とし、出産後は休職していたとのこと。現在、女性研究者支援室の特任助教に就いていますが、勤務時間内に自分の研究をすることは禁じられており、大きな悩みとなっていると述べました。会場から、別の女性研究者支援室のスタッフも同様の悩みを持っているとの発言がありました。

任期制にともなう利点として、政府・文部科学省などは、「国際競争力強化」「研究人材の流動化」「研究の活性化」などを挙げてきましたが、この分科会では「任期制によってモチベーションが上がった」という報告はありませんでした。

現在、若手研究者の大部分が不安定な雇用状態にあり「高学歴ワーキングプア」（博士の就職難）という言葉さえ生まれています。男女共同参画学協会連絡会は理系の学協会の集まりですので、報告者は女性の理系研究者に限られていましたが、ここで報告された内容は、性別や、理系・文系にかかわらない、若手研究者共通の悩みと思います。一方、特にとりあげるべき女性研究者の問題として、3M（Marriage, Maternity, Movement＝夫の転勤などに伴う移動）があるとの指摘がありました。

このシンポジウムの2ヶ月後、行政刷新会議による事業仕分けが行われ、若手研究者・女性研究者の活動を支援するための予算も縮減との結論が出されました。真に削減すべき予算は何なのか見据えながら、学術・研究全体の発展のため、広い視野での女性研究者運動が必要と感じています。

5. 事務局メモ

5-1 政府による行政刷新会議事業仕分け一女性研究者支援に関する内容

政府による行政刷新会議が実施され、女性研究者支援事業は概算要求の1/3程度の縮減（30億円→20億円）という結論になりました。日本では、指導的地位に立つ管理的職業従事者や専門分野への女性の進出が諸外国に比べて大変遅れており、ジェンダーギャップ指数が世界で98位という情けない状態です。充実した長期的な女性研究者育成策を実施することが求められているにもかかわらず、近視眼的な「事業仕分け」でわずかな支援をさらに削減することは、男女共同参画についても科学技術発展についても逆行しています。この決定に、学協会や個人から11月24日集計で計167件のパブリックコメントが寄せられ、1件を除いて助成縮減に反対するものでした。また、女性研究者支援充実に言及したパブコメは約500件であったとのこと。最終的には「縮

減をはかるものの、今年度と同程度規模の予算額は確保し、女性研究者の活躍促進に努めて参ります。」とコメントがつけられました。(委員会事務局 中村寿子)

5-2 2009年女性研究者技術者委員会、ならびに女性研究者関連活動の記録

- 2009. 3. 7 学術体制部会 (担当 石渡)
- 独立行政法人 科学技術振興機構 (JST) の人材データバンク (JREC-IN) についてのアンケート (男女共同参画学協会連絡会経由) に回答 (担当 石渡)
- 2009. 3. 25 男女共同参画学協会連絡会第7期第2回運営委員会 (担当 石渡)
- 2009. 2. 26 日本の学術体制の問題について国民新党と私大連盟との懇談に参加 (担当 石渡)
- 2009. 4 JSA 全国常任幹事 (女性担当) 石渡再任
- 2009. 6. 14 学術体制部会 (担当 石渡)
- 2009. 6 第45期 委員・連絡員選出
- 2009. 10. 7 男女共同参画学協会連絡会 第7回シンポジウム参加
- 2009. 11. 28 日本科学者会議東京支部主催「第15回東京科学シンポジウム」女性研究者関連の分科会参加
- 2009. 11~12 行政刷新会議の仕分け事業パブリックコメント応募
- 2009. 12 男女共同参画学協会連絡会「科学技術分野での男女共同参画の推進に向けての要望」 MLで意見募集、政府へ提出
- 2009. 12. 22 日本共産党国会議員団より「科学・高等教育の予算充実のための懇談会」への出席要請を受けて参加 (担当 石渡)
- 2010. 1 女性研究者技術者委員会のホームページ更新 (担当 今枝)
- 2010. 3 女性研究者技術者委員会ニュース発行 (事務局)

全交流 ‘zenkoryu@freeml.com’ MLに参加しませんか？

発端は、06年日本科学者会議(JSA)第16回総合学術研究集会での分科会や懇親会などに参加した者が元気に会食した時、論議をもっと日常的に続けられたらね、という発案からスタートしました。女性も男性も、JSA 会員に限らずいろいろな立場の人が参加しています。仕事や学びの相談ごと、意見、近況、会合に参加した感想、読書感想、ニュース、etc。なんでもありのMLです。昨年から若干参加者が増加。入会希望者はHP、または各支部の委員か連絡員へ入会希望を伝えてください。

(登録世話役 岡山支部 白井浩子)